

フランス語スキル(フランス語と市民性) 2017 年度 春学期 火曜日 2 時限

担当教員：倉館健一

科目概要

この科目では、各人の市民社会でのあり方を、フランス語を通じた異文化間能力や言語文化の学びから深めるため、いくつかのアクティビティをもとに考えていきます。多文化社会化は世界的な流れであり、大都市やネット空間ばかりでなく、地方にも直接・間接的に波及しています。また外交感覚不在への反省、そして自ら思考し判断し、個々の夢を実現してゆくためにも、このような市民社会の変容、またそこに表れる価値観の多様性は無頓着でいられません。そもそも異文化間能力とは、言語文化学習のみならず、学び一般においても決して補完的な能力ではないのです。そこで、価値観のギャップや葛藤、対立などの対処について、一人ひとりのこれまでの外国語学習やさまざまな異文化体験などの経験をもとに、リフレクティブ・シンキング（内省・問題解決を生む思考）を促すアクティビティを重ねながら、この能力に関する自己信頼を高めていきます。

主題と目標／授業の手法など

フランス語スキルですので、フランス語を通じてこの内容を扱います。まず“language arts”（対話のスキル）のトレーニングを行なっていきます。併せて内外の社会問題について、日本語や英語で触れているものに加えて、フランス語圏のさまざまな地域での状況や資料などを素材にしたアクティビティを状況に合わせてデザインしていきます。日本語、あるいは英語の、また英語化されたリソースからだけでは捉えきれない現実と世界の多様性に触れ、今の市民社会と向きあう糧とすることを狙います。

教材・参考文献

特に指定の教材はありません。

この授業用のサイトを構築し、学習リソースを整理していきます。今学期も引き続き、関心の高い社会問題に取材したアクティビティなどを扱いたいと思います。

参考文献については授業で案内します。以下はあくまで参考です。

- 馬淵仁『「多文化共生」は可能か—教育における挑戦』(2011), 勁草書房

- 三森ゆりか『大学生・社会人のための言語技術トレーニング』大修館書店, 2013.
- 三森ゆりか『外国語を身につけるための日本語レッスン』白水社, 2003.
- A. Giordan & J. Saltet, « Apprendre à apprendre », Libro Mémo, 2011.

提出課題・試験・成績評価の方法など

アクティビティごとに課題を作業していきます。

成績評価は、アクティビティごとにこちらで準備する評価グリッドによって算出していきます。またそこに、産出物の点数および量、さらに自己評価を加え、総合的に評定を決定します。